

TOTO

コンパクト手洗器用オートストップ水栓

TL579AF型


商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。



1 安全上の注意 (安全のために必ずお守りください)





取り付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。


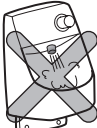




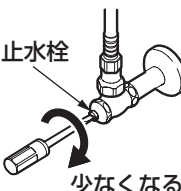
●この説明書では商品を安全に正しく取り付けただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

●お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

表示	意味
 注意	この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、傷害または、物的損害が発生する可能性があることを示しています。

	は、してはいけない「禁止」内容です。左図は、「分解禁止」を示します。
	は、必ず実行していただく「強制」内容です。左図は、「必ず実行」を示します。

注意	
 禁止	<p>手洗器に硬い物を落とさない</p> <p>手洗器が破損して、けがをしたり、水漏れのため家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。</p> 
	<p>手洗器にぶら下がったり乗ったりしない</p> <p>手洗器が破損してけがをするおそれがあります。</p> 
	<p>手洗器に熱湯を注がない</p> <p>手洗器が破損して、けがをしたり、水漏れのため家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。</p> 

注意	
 禁止	<p>40℃以上の湯は使わない</p> <p>水栓が破損するおそれがあります。</p> 
	<p>屋外や凍結が予想される場所には設置しない</p> <p>故障の原因または、部品が破損し、水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。凍結のおそれがある場合は、周囲の温度が氷点下にならないようにしてください。凍結による破損は、保証期間内でも有料修理となります。</p> 
 分解禁止	<p>この説明書に記載された項目以外は分解・改造しない</p> <p>破損して、けがをしたり、水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。</p> 
 必ず実行	<p>水圧が高い場合は、「7 施工後の確認の 2. 流量の調節」を参照して止水栓を絞り流量を調節する</p> <p>流量を調節しないと手洗器から水があふれ、家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。</p>  <p>止水栓 少なくなる</p>

2

部品の確認

	給水金具	排水金具	止水栓	その他
TL579 AFP型	給水金具本体 吐水口部 吐水口継手 パッキン 泡まつキャップ 吐水口キャップ	つば付きナット スリップワッシャー パッキン 吐水管	止水栓 フランジ	取付金具 バックハンガー 木ねじ 化粧キャップ 木ねじ
TL579 AFS型	吐水管 吐水口キャップ		フランジ 止水栓	必ずお客様にお渡しください 施工説明書 注意札
TL579 AFFS型	吐水管継手 押しボタン部 押しボタン パッキン		フランジ 止水栓	必ずお客様にお渡しください 施工説明書 注意札
TL579 AF型	給水ホース ソケット 六角棒レンチ (対辺4mm)			必ずお客様にお渡しください 施工説明書 注意札

3

仕様

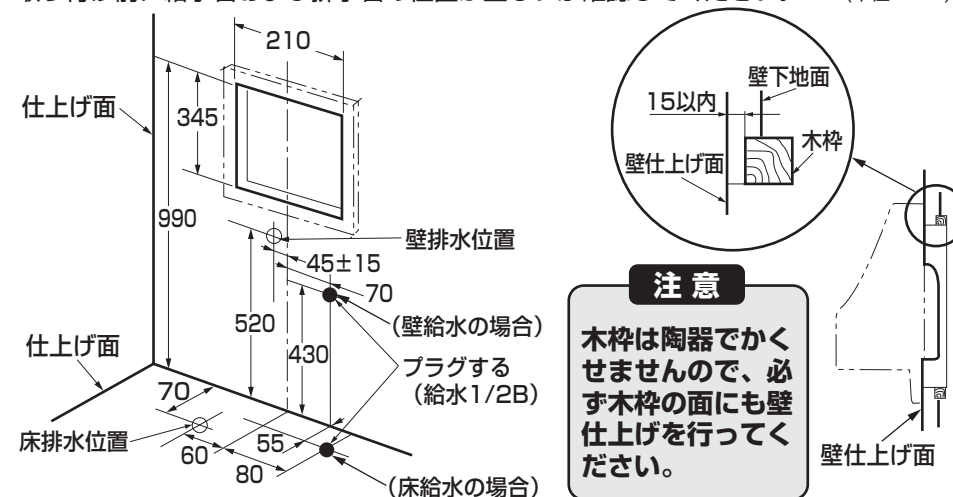
給水・給湯圧力	最低必要水圧	0.05MPa(流動時)
	最高水圧	0.75MPa(静止時)
使用最高温度	40℃以下	
使用可能水質	水道水および飲用可能な井戸水	
使用環境温度	1~40℃	
用途	パブリックおよび一般住宅手洗用	

4

取り付け前に

給水・排水管位置の確認

取り付け前に給水管および排水管の位置が正しいか確認してください。(単位: mm)



注意

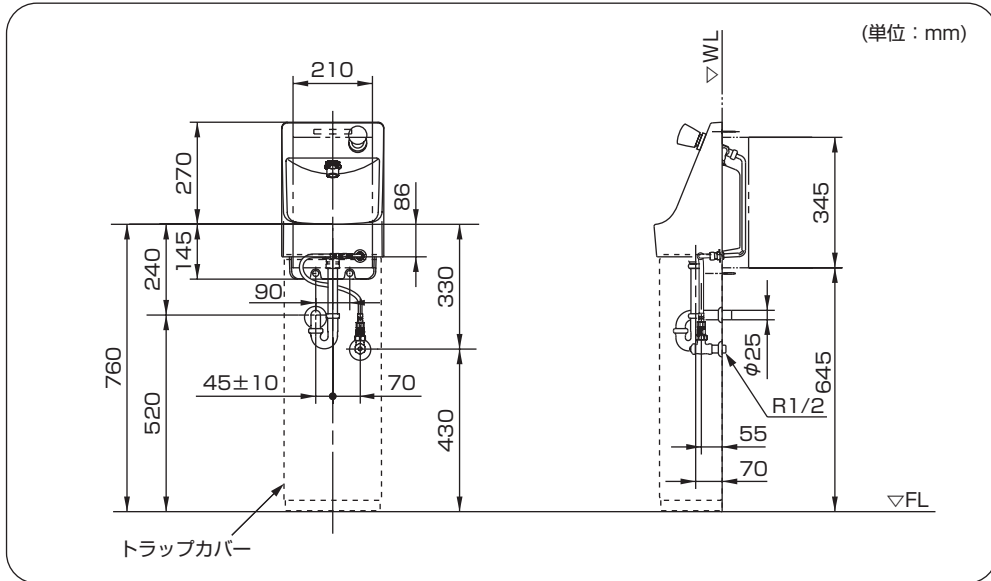
木枠は陶器でくせませんので、必ず木枠の面にも壁仕上げを行ってください。

注意

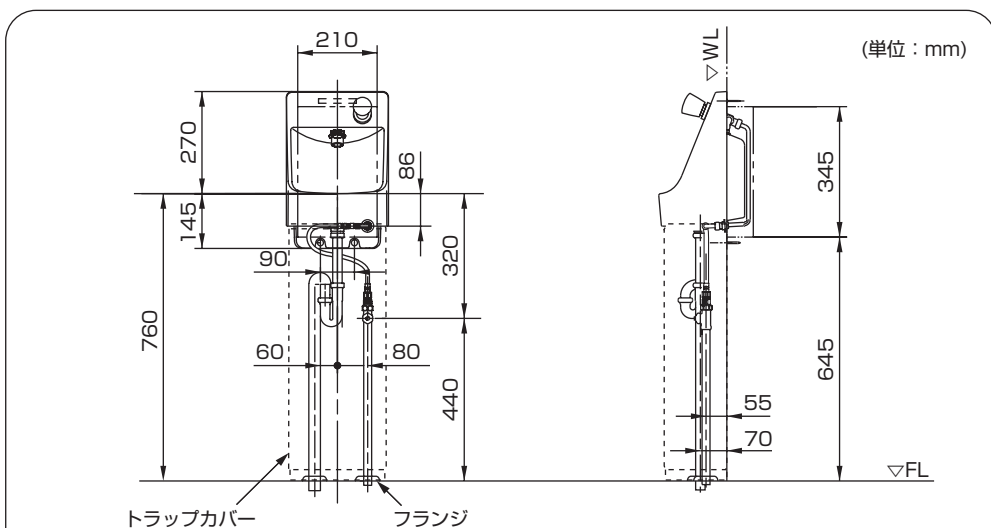
- 壁排水の排水位置は手洗器の中心から左または右に45±15です。
- 壁仕上げ前に図のように木ねじ固定用の木枠を固定しておいてください。

5 完成図

1. 壁給水・壁排水タイプ



2. 床給水・床排水タイプ



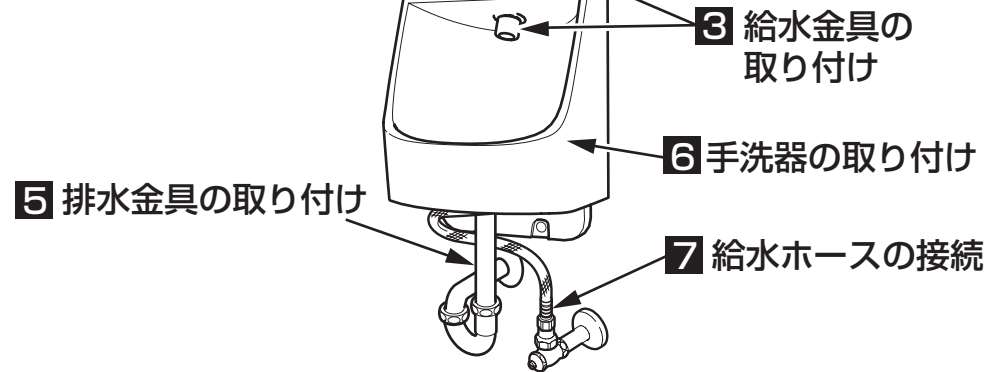
※トラップカバー付きの場合、床給水・床排水のフランジは取り付けないでください。

6-1 施工手順

1 バックハンガーの取り付け

2 給水管内の清掃

4 水漏れの確認

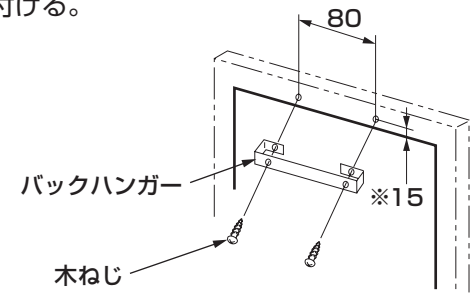


1 バックハンガーの取り付け

バックハンガーを所定の位置に取り付ける。

注意

- バックハンガーは木枠へ水平に取り付けてください。
- 取付強度を十分確保するため、※印寸法は必ず守ってください。



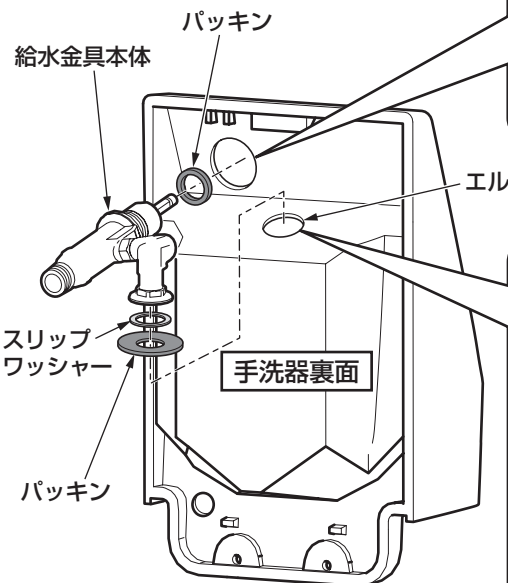
2 給水管内の清掃

取り付ける前に**必ず給水管内のごみ、砂などを完全に洗い流す。**

重要

3-1 給水金具の取り付け

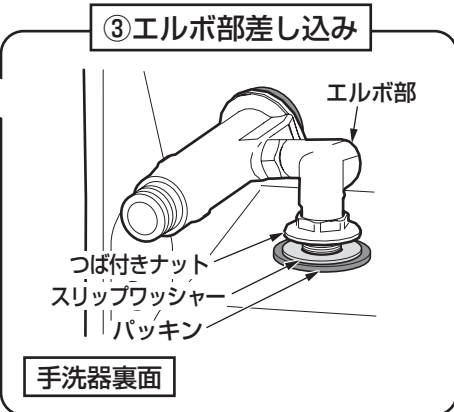
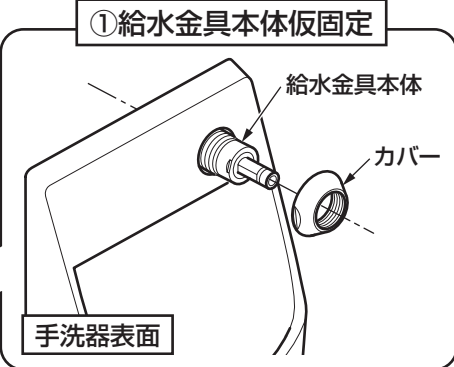
①給水金具本体にパッキンを取り付け、手洗器に差し込み、カバーで仮固定する。



②エルボ部につば付きナット、スリップワッシャー、パッキンの順で取り付ける。

※つば付きナットは、ねじ部の上まであげてください。

③手洗器の取付穴にエルボ部を差し込む。



3-2 給水金具の取り付け (つづき)

④吐水口部を図の順に組み立て、エルボ部にねじ込み、吐水口部のつばと手洗器の取付面のすき間がなくなるまで手締めする。

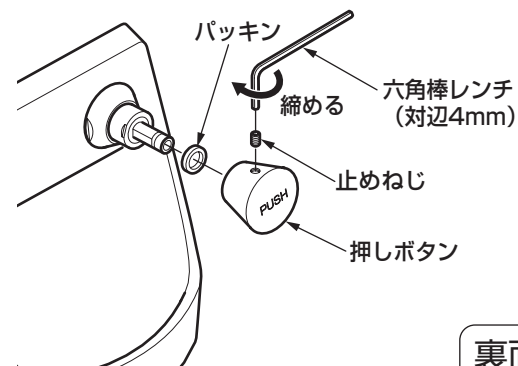
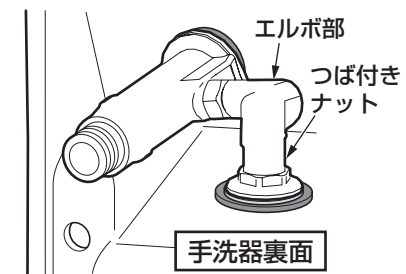
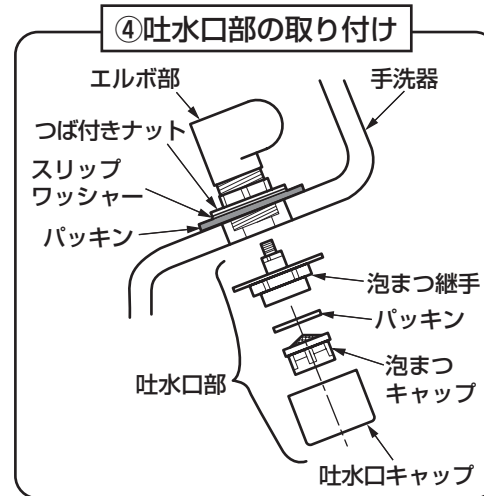
注意

吐水口部のつばと手洗器の取付面はすき間があかないようにする。

⑤給水金具本体のカバーをねじ込み、本固定する。

⑥つば付きナットを締め付けて、エルボ部を固定する。

⑦押しボタンを取り付ける。



裏面へつづく

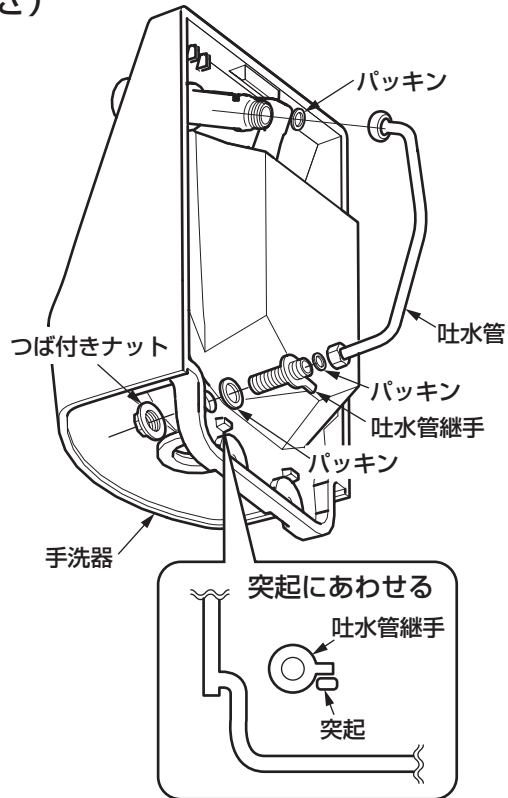
3-3 給水金具の取り付け(つづき)

- ⑧手洗器に吐水管継手を差し込み、つば付きナットで仮固定する。
- ⑨吐水管を接続し、固定する。

注意

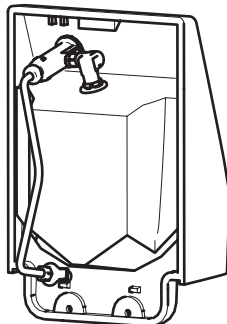
- 吐水管は変形しないように取り扱いに注意してください。
- 吐水管の結露対策は必要に応じて現場で行ってください。

- ⑩吐水管継手を本固定する。



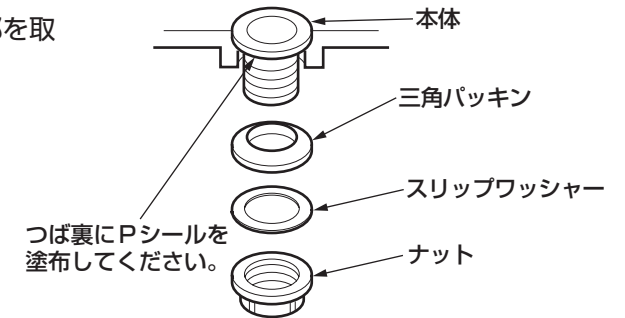
4 水漏れの確認

手洗器を設置する前に耐圧を確認し、手洗器裏側に水漏れがないことを確認する。



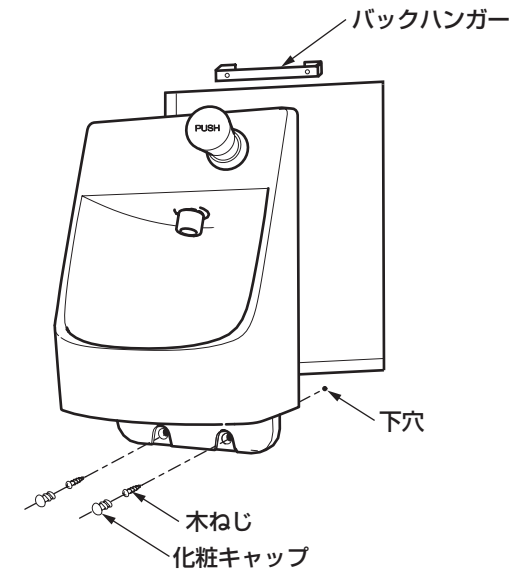
5 排水金具の取り付け

手洗器に排水金具の本体部を取り付ける。



6 手洗器の取り付け

- ①手洗器をバックハンガーに引っかけて仮据えし、上部を押さえ手洗器が水平であることを確認する。
- ②下部の取付穴の位置をけがき、下穴をあけ、木ねじで固定し、化粧キャップを付ける。

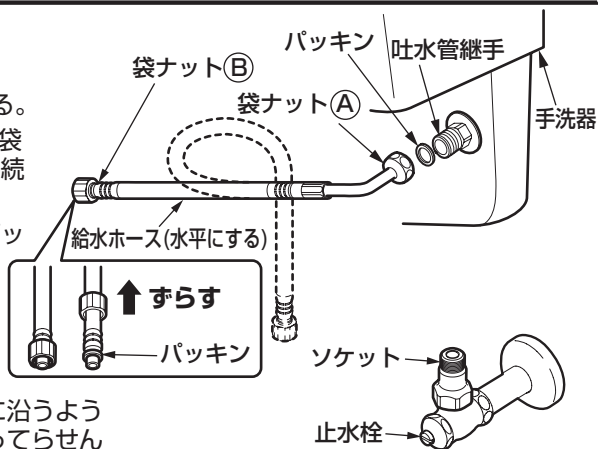


※設置したときに壁開口が見えないことを確認してください。

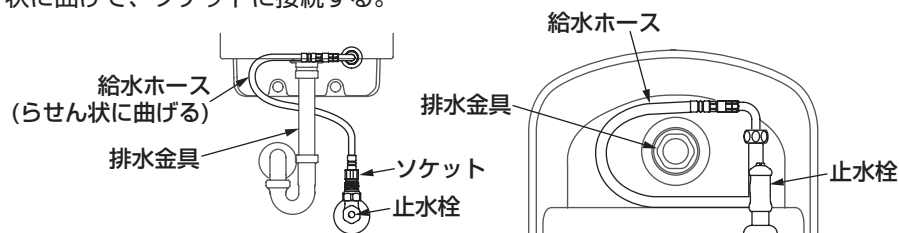
※施工後の補修を容易にするために、手洗器をモルタルで埋戻したり接着剤での固定はしないでください。

7 給水ホースの接続

- ① 止水栓を取り付ける。
- ② ソケットを止水栓に固定する。
- ③ 給水ホースを水平にして、袋ナット(A)を吐水管継手に接続する。
- ④ 袋ナット(B)をずらして、パッキンがあることを確認する。

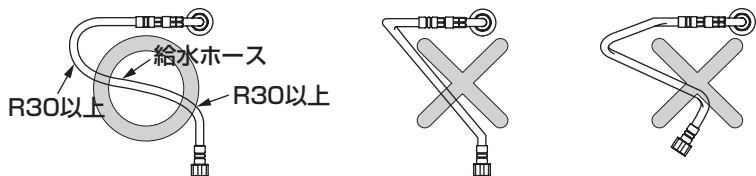


- ⑤ 給水ホースを洗面器の下面に沿うように半周曲げて止水栓に向かってらせん状に曲げて、ソケットに接続する。



給水ホース施工上の注意点

- ホースを **必要以上の力で曲げて折らないように** 注意してください。ホースの **最小曲げ半径は30mm** です。それよりも小さく曲げて使用すると、ホースが折れ、十分な流量が出ない場合や、破損、水漏れのおそれがあります。
- ホースを **水栓本体端面から極端に屈曲して施工しないで** ください。
- ホースを **無理に引っ張らないで** ください。ホースが折れる可能性があります。
- ホースと他部材との **不要な接触は避けて** ください。外部補強層の摩擦による外傷でホース性能の劣化の可能性があります。



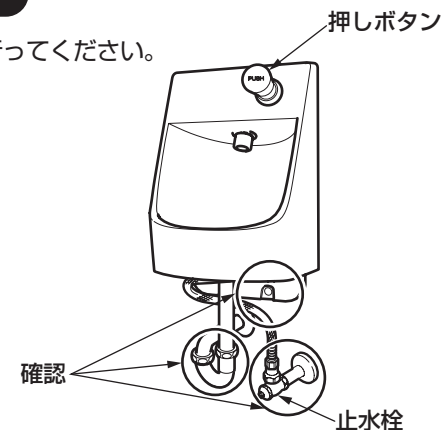
施工後の確認

1. 取り付け完了後の確認

取り付けが完了したあと、次の方法で確認を行ってください。

<水漏れの確認>

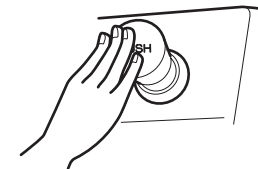
- ① 止水栓を開ける。
- ② 給水金具・排水金具・止水栓などの接続部から水漏れがないか確認する。



<水を出す・止める>

押しボタンを押すと水が出る。

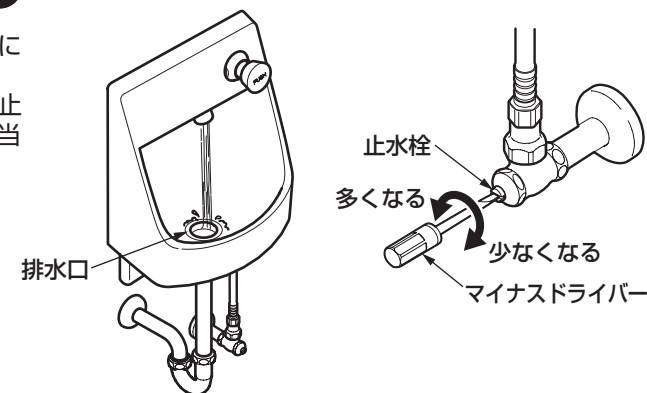
※一定時間水が出たあと、自動的に止まります。



- 取り付け当初、流量は多め、吐水時間は長めにありますが、数回の水出し操作で正常になります。流量の調節・吐水時間の調節は、数回の水出し操作後行ってください。

2. 流量の調節

使用時に水飛びしない程度に流量を調節してください。マイナスドライバーなどで止水栓を回して水が排水口に当たる程度が目安です。



3.吐水時間の調節

吐水時間を調節する場合、次の要領で行ってください。
なお、吐水時間の最大は**0.05Mpa時、20秒程度**です。

1. 流量を確認する。

使用時に水が排水口に当たるよう流量が調節されているか確認してください。

2.流量の調節 を参照。

2. 止めねじをゆるめて押しボタンを引き抜き、取り外す。

3. 押棒の回り止めのため、モンキーレンチで押棒を支える。

4. マイナスドライバーを差し込み、押棒内部の吐水時間調節ねじを回す。

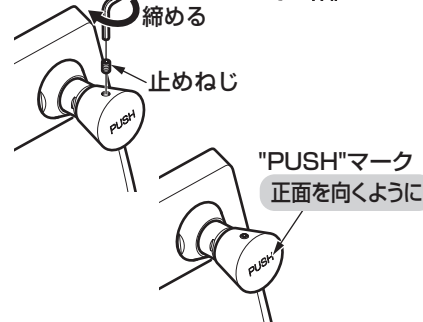
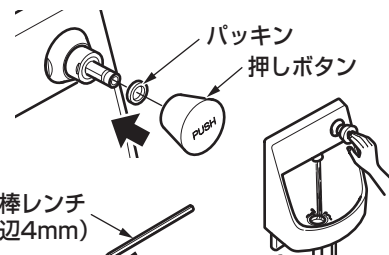
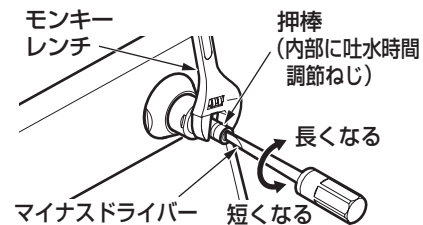
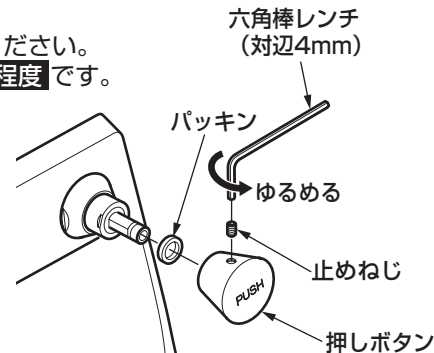
時計回りに回すと吐水時間が長くなり、反時計回りに回すと短くなります。

5. 押しボタンを仮締めし、押しボタンを押して吐水時間を確かめる。

6. 適切な時間に調節が完了したら、止めねじを締め付ける。

※止めねじはゆるまないように十分に締め付けてください。

※押しボタンは取り付け後、"PUSH"マークを正面の位置にしてください。



4.取り付け後の掃除

フィルターが詰まると、水の流れが乱れたり吐水量が少なくなるなど、機能が十分に発揮されませんので、器具の取り付け後は必ず掃除してください。

●フィルターの掃除

(1) 止水栓を閉じる。

(2) 止めねじを付属工具 (六角棒レンチ) でゆるめて押しボタンを取り外す。

(3) カバーをスパナでゆるめて取り外す。

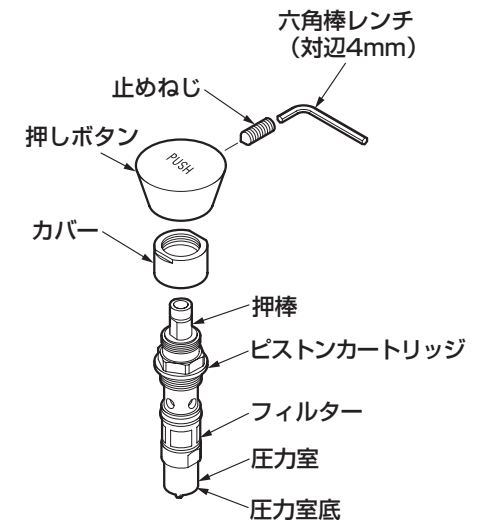
(4) ピストンカートリッジをスパナでゆるめて取り出す。

(5) フィルターの網目に詰まったごみを歯ブラシなどで掃除し十分水洗いする。

(6) 組み立てる (※)

(※) ・組み立ての際はピストンカートリッジがゆるまないよう十分に締め付けてください。

・付属の六角棒レンチは必ずお客様にお渡しください。



⚠ 注 意

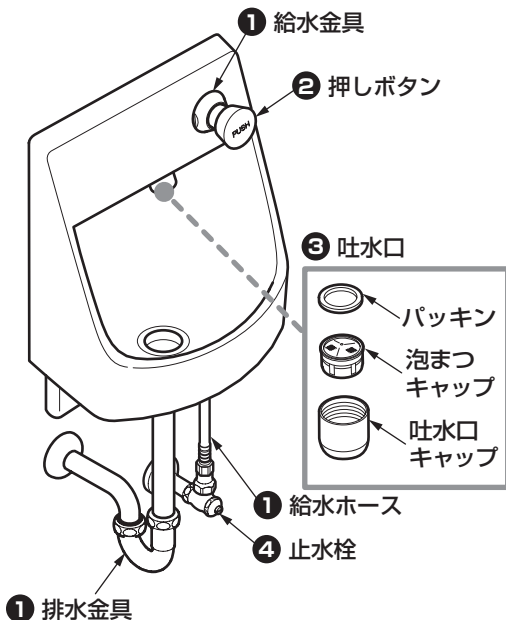


圧力室底に指などが触れた状態で押棒を操作しない

押棒を操作した場合、圧力室底からピンが飛び出ます。けがをするおそれがあります。



取り付けが完了したあと、次の項目を確認してください。



水漏れの確認

水漏れがないか確認してください。

① 給水金具・排水金具・給水ホースはしっかり接続されていますか？

- ⑥-2 - ③ 「給水金具の取り付け」参照
- ⑥-3 - ⑤ 「排水金具の取り付け」参照
- ⑥-4 - ⑦ 「給水ホースの接続」参照

水出し確認

配管部の元栓を開け、吐水口から水が出るか確認してください。



ガタツキの確認

ガタツキがないか確認してください。

② 押しボタン取り付け用止めねじはゆるんでいませんか？

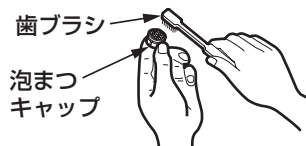
- ⑥-2 - ③ 「給水金具の取り付け」参照

流量の確認

流量が少ないときは、次の項目を確認してください。

③ 吐水口のごみ詰まりはないですか？

→ 吐水口の掃除をする。



④ 止水栓は開いていますか？

- ⑦-1 2.流量の調節 参照

※同梱の取扱説明書などは、必ずお客様にお渡しください。